

「日本語を教えるための日本語文法」

第6回

「肩を借りながら歩く」

山田 あき子

<http://yu-yu-jin.com/>

nihongo@yu-yu-jin.com

検討したいこと 「足を痛めた力士が付き人の肩を借りながら支度部屋に下がった」は文法的か
提案したいこと 「テレビ体操を見ながら体操をする」と「テレビ体操を見て体操をする」には
捉え方に違いがあること

「肩を借りながら歩く」「立ちながら話す」「傘を持ちながら走っている」「自転車に乗りながら携帯をするのは危険だ」といった表現をそのまま耳にします。違和感はないのでしょうか。この違和感はどこからきているのでしょうか。秘密は「ながら」の使い方にあるようですので、今回は「ながら」に焦点を当てます。

「ながら」の用法でも、「スポーツ選手の多くは音楽を聴きながら出番を待つそうだ」の「ながら」の用法について考えていきます。

1 【【文₁】ながら】の働き

以下の文（1）を絵にするようにと言われた場合を想定するところから見ていきましょう。

（1） 山田は草原に寝転がっている。

これだけの情報では絵は描けないと思う方が多いのではないのでしょうか。あるいは、情報はこれだけだと言われて書き始めることになったら、様々な絵が出来上がってくるに違いありません。

もう一例、文（2）を見ておきましょう。

（2） 食べるのは良いマナーではない。

文（2）のように「食べるのは良いマナーではない」と言われた場合はどうでしょうか。意味不明であり、これもまた情報不足です。

文（1）については皆さんはどんな情景を思い浮かべているのでしょうか。また、文（2）については食べることに關しどのような良くないマナーを想像しているのでしょうか。

みなさんが思い浮かべた情景や想像とは違うかもしれませんが、文（1）について以下のような情景を思い浮かべることができるでしょうし、文（2）については以下のような想像ができるでしょう。

- 1 a 山田は満天の星を見ながら草原に寝転がっている。
- 1 b 山田は鼻歌を歌いながら草原に寝転がっている。
- 1 c 山田は左から右、右から左と天の川を指で示しながら草原に寝転がっている。
- 1 d 山田は子供と手をつないで草原に寝転がっている。
- 1 e 山田は大の字になって草原に寝転がっている。

- 2 a テレビを見ながら食べるのは良いマナーではない。
- 2 b 肘をついて食べるのは良いマナーではない。
- 2 c 立って食べるのは良いマナーではない。
- 2 d 音を立てて食べるのは良いマナーではない。

どうでしょうか。こうすると相当理解できる内容になったのではないのでしょうか。文(1)、文(2)の様子を【文₁ながら】と【文₁て】が特定しており、寝転がっている姿・様子、食べるときに取る態度が明確になったからです。絵にしやすくなったのであり、良いマナーではない内容が具体的にわかったのです。

ここで、1 a～1 e、2 a～2の構文を整理しておきましょう。

1 a～1 eの構文：【【文₁-動詞(ます形)】ながら【文₂】】文₀

2 a～2 dの構文：【【文₁-動詞】て【文₂】】文₀

2 [ながら接続] と [-て接続]

【文₁ながら】、【文₁て】は、【文₁】と【文₂】との係わりの中では同様の働き方をしています。しかし、[ながら接続]を[-て接続]に、[-て接続]を[ながら接続]にと、双方を入れ替えて使えるのかというとそうではありません。以下の例文1 a'～1 e' 2 a'～2 d'で見ていきましょう。

文法性を以下の3点で判断しチェックしながら読み進めてください。

- (1) 文法的、(2) 違和感がある、(3) 非文法

- 1 a' () 山田は満天の星を見て草原に寝転がっている。
- 1 b' () 山田は楽しそうに鼻歌を歌って草原に寝転がっている。
- 1 c' () 山田は天の川を指で右から左、左から右と指で示して草原に寝転がっている。
- 1 d' () 山田は子供と手をつなぎながら草原に寝転がっている。
- 1 e' () 山田は大の字になりながら草原に寝転がっている。

- 2 a' () テレビを見て食べるのは良いマナーではない。
- 2 b' () 肘をつきながら食べるのは良いマナーではない。
- 2 c' () 立ちながら食べるのは良いマナーではない。
- 2 d' () 音を立てながら食べるのは良いマナーではない。

どうでしょうか。

納得のできるもの、違和感のあるもの、全く非文法だと感じるものとあったのではないのでしょうか。[ながら接続]と[-て接続]に使用上の規則があることがわかります。

「ながら」についていうと一般的に次のように説明されます。

構文：【【文₁-動詞(ます形)】ながら【文₂】】文₀

【文₁】で伝えられることと【文₂】で伝えられることが同時並行的に起こっている

【文₁】は継続的動作を示す

【文₂】が主文である

【文₁】と【文₂】の動作主は同一であるⁱⁱ

この規則に則って1 a' ~ 1 e'、2 a' ~ 2 d' および1 a ~ 1 e、2 a ~ 2 dを確認して見ましょう。

オリジナルの例文が[-て接続]であったものは2 d'を除いて非文法と判断されていないでしょうか。例文(1 d'、1 e' / 2 b'、2 c')に取り上げられている全ての動作<手をつなぐ、大の字になる、肘をつく、立つ>が時間の幅を必要とする動作・行為ではないことによります。すなわち、動作そのものの継続を示していません。以下の例を見てください。

- ・手をつないでいる
- ・大の字になっている
- ・肘をついている
- ・立っている

いずれも、見ている、歌っているとは違い、動作の結果としての状態を伝えています。手をつなぐという動作・大の字になるという動作・肘をつくという動作・立つという動作そのものは瞬間的に完了する動作であり、時間幅を必要としない動作なのです。ですから、動作自体の継続は伝えています。[ながら接続]は非文法となります。

それに対し、オリジナルの例文が[ながら接続]であったものは、[-て接続]にした場合に違和感を感じたものもあったかもしれませんが、[-て接続]も使えそうと判断されていないでしょうか。

時間幅を必要としない動作を伝える動詞と[ながら接続]が使用不可だということを確認しました。「ながら」は動作の遂行に時間幅のある動作と用いられると言っていいでしょう。

次に考えなければならないことは、時間幅を必要とする動作を伝える動詞を[ながら接続] [-て接続]で使う場合の選択基準です。学習者が必ず疑問を持ちます。

対話例をみていきましょう。

- 1 A: モンゴルの草原では思い思いに草原を楽しむそうですね。
B: ええ。満天の星を見て楽しむ人や、鼻歌を歌って楽しむ人や、瞑想して楽しむ人など様々です。
A: そうですか。
- 2 A: 日本語で文章を書くのにだいぶ慣れたんじゃないですか。
B: いいえ。まだまだです。
A: そうですか。
B: いまだに、辞書を見て書くことが多いです。
- 3 A: 体操をしているそうですね。
B: ええ。
A: 自分で考えるんですか。
B: いいえ、テレビ体操を見てするんです。自分で考えるのは難しいですから。

- 4 A：著作の過程で行き詰まることはないんですか。
 B：ありますよ。
 A：そんな時どうなさるんですか。
 B：そうですね。部屋の中を歩き回って考えることがありますよ。
 A：そうですか。
- 5 A：そばを食べるときに、ズルズルと音を立てるのはちょっと……。
 B：そばをスルスルと吸うと音が出るんですが、音を立てて食べたほうがおいしいとおもいますよ。
 A：そうですか。

[ながら接続] の場合は動作の継続的な動きを感じますが、[-て接続] では【文₂】が伝えていること<楽しむ、書く、体操をする、考える、食べる>を行う時の方法・手段を伝えていると解釈できないでしょうか。

もう一つ例を見ておきましょう。以下の対話例① ②では[ながら接続] と[-て接続] とどちらのほうがより良いでしょうか。

- ① A：大関が怪我をしたそうですね。
 B：ええ。
 足首が痛いのか、
 { 足を引きずりながら } 歩いている姿は痛々そうでした。
 { 足を引きずって }
 A：早く完治するといいですね。
 B：そうですね。

[-て接続] の方がいいのではないかと思いますでしょうか。

- ② A：大関の様子はどうか。
 B：今、人の手を借りて立ち上がりました。
 そして、ゆっくり
 { 足を引きずりながら } 引き上げていきます。
 { 足を引きずって }
 相当痛そうです。
 A：わかりました。

このような場合には、[ながら接続] がいいかと思いますが、どうでしょうか。

[ながら接続] の場合と[-て接続] の場合を絵にするとしたら、厳密には、【【文₁】ながら【文₂】】文₀は複数の絵になるでしょうし、【【文₁】て【文₂】】文₀は静止画として一枚の絵に描くことになるのではないのでしょうか。

冒頭に問題提起した「肩を借りながら歩く」「立ちながら話す」「傘を持ちながら走っている」「自

「自転車に乗りながら携帯をするのは危険だ」の違和感は、「肩を借りる・立つ・傘を持つ・自転車に乗る」という動作が時間の幅を必要としない動作であることによります。ですから、「肩を借りて歩く」「立って話す」「傘を持って走っている」「自転車に乗って携帯をするのは危険だ」とすると違和感はなくなるのではないのでしょうか。

3 まとめ

- (1) 【文₂】の様子・姿を、同時並行的な動作に着目をして特定する方法に「ながら接続」と「-て接続」とがある。
- (2) 時間幅を必要とする動作の場合、「ながら接続」と「-て接続」がありうる。
 - a 「ながら接続」の場合は、語（動詞）で示される動作・行為そのものが継続していることを伝える。
 - b 「-て接続」の場合は、手段・方法を伝えることに重点がおかれる。
- (3) 時間幅を必要としない動作の場合は、「-て接続」で【文₁】と【文₂】を接続する。
- (4) 主文は【文₂】である。

【文₁】は【文₂】の様子・姿を特定したり・厳密にしたりしているに過ぎない。

4 指導

- 1) 「ながら接続」、「-て形接続」と部分にこだわるのではなく、【文₁】ながら、【文₁】での必要性を認識し、学習者には認識させるように指導することが肝要です。
- 2) 【文₂】が継続的な動作表現（例1）とともに指導するケースが多いですが、以下に示した（例2、3）ように【文₂】は必ずしも継続的な動作表現である必要はありません。その点、留意しておくことが肝要です。
 - 例1 朝ごはんを食べながらテレビニュースを見ている。
 - 2 毎日、音楽を聴きながら、ジョギングします。
 - 3 音楽を聴きながら、寝る。

参考文献

寺田和子他(2001)『日本語の教え方ABC』アルク

Tohsaku, Yasu-Hiko (1994) *YOOKOSO An Invitation to Contemporary Japanese*, McGraw-Hill, Inc.

松岡弘監修(2001)『日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク

吉川武時 (1990)『日本語文法入門』アルク

-
- i 「ながら」には「あんなに食べていながら、まだ食べたいと言っている」の使い方もあるが、ここでは触れない。
 - ii 【文₁】と【文₂】の動作主が異なる場合は「間」を使う。

例 子供たちが遊んでいる間、母親たちは井戸端会議をしている。